

国際・文化・観光振興対策特別委員会記録

- 1 期 日 平成21年2月20日（金）
- 2 場 所 第5委員会室
- 3 出席委員 副委員長 吉井清介
委 員 森川家忠、梶川幸子、田川寿一、宮 政利、川上征矢、
富永健三、蒲原敏博
- 4 欠席委員 委員長 石橋良三、委 員 安井裕典

5 出席説明員

[総務局]

総務局長、秘書広報部長、国際課長

[環境県民局]

環境県民局長、総務管理部長、県民文化課長

[商工労働局]

商工労働局長、産業振興部長、観光課長

[土木局]

土木局長、空港港湾部長、港湾技術総括監（兼）港湾管理課長、空港振興課長

[教育委員会]

教育次長、教育部長、指導第一課長、指導第二課長、生涯学習部長、文化課長

6 報告事項

- (1) ユニタール広報資料
- (2) けんみん文化祭'08開催状況について
- (3) 平成20年度広島県観光立県推進会議の開催状況について

7 会議の概要

- (1) 開会 午前10時32分
- (2) 記録署名委員の指名
- (3) 質疑・応答

○質疑（田川委員） ただいま観光の推進について、観光課長から説明がありましたが、国の第2次補正予算に盛り込まれた高速道路料金の割引に関してお尋ねします。

E T Cを利用している方を対象に、休日は1,000円で走り放題になるということですが、これにより大きな経済効果が期待でき、観光振興につながるのではないかと思います。もちろん、高速道路料金の割引は、第2次補正予算と関連法案の成立後、準備でき次第実施できるということになっており、近々実施をされるとのことですが、県ではこれを観光振興に役立てようという方針なり、何か考えているのか、あるいは戦略を考えているのでしょうか。

○答弁（観光課長） 広島県の場合、マイカー利用の割合が6割ぐらいでございますので、プラス効果があると思っております。この件につきましては、現在、西日本高速道路

とも協議しておりますが、とにかくインターチェンジをおりていただくのが大事ですから、サービスエリア、パーキングエリアで広島県の案内をさせていただき、そういう対策を考えております。

次に渋滞対策ですが、特に宮島口は、競艇開催時等を中心に渋滞し、現地に着けないという状況もありますので、その点につきましては、廿日市市とどういうふうに対応するかについて協議しております。

- 要望・質疑（田川委員） 今検討されているということで少し安心しましたが、円高であるということ踏まえ、特に内需を喚起する観点からしっかりと取り組んでいただきたいと思っております。しまなみ海道でも料金が値下げされるということですから、高速道路を利用される方はふえるものと期待されます。地域活性化のためにしっかりと検討をお願いしたいと思います。

高速道路等において案内をされるということですが、もっと具体的に観光振興を戦略的に考えられた方がいいのではないかと思います。国土交通省では、観光バスについても値下げの対象にすることを検討されていると聞いておりますが、例えばそういうものうまく利用して、広島県に高速道路を利用する観光客を誘致するような、何かいろいろな戦略があってもいいのではないかと思います。どうでしょうか。

- 答弁（観光課長） もちろん我々にとってもプラスになるので非常にいいと思っておりますが、JRや旅客船業界もございますので、どのようにやるのかということについてはまた検討させていただきたいと考えております。

- 要望（田川委員） しっかりと検討していただきたいと思っております。国土交通省では、高速道路料金が値下げされると、日帰り旅行の年間平均回数が7.7回から10.6回に、宿泊旅行については年間2.8回から3.5回にふえるだろうと予想しております。車による旅行がふえれば地方のレジャー施設もにぎわい、経済効果が期待でき、雇用の創出にもつながるかもしれないといった具合にいろいろなことが考えられます。しっかりとした全体的な戦略を検討していただきたいことを要望し、質問を終わります。

- 質疑（川上委員） きのうの新聞によると、広島ーソウル線のダイヤが、広島発が午前9時40分、広島着が午後8時過ぎに改正されることとなったと報道され、私は非常にいいことだと思うのですが、今までの乗客数はどうだったのか、教えてください。

- 答弁（空港振興課長） ソウル便につきましては、年間利用客が大体8万人前後です。最近クイックターンと言いまして、駐機せず、11時に広島に到着して12時には出発しすぐにソウルへ帰るということで、時間が使いにくかったということもあり、利用者が少しずつ減ってきた状態です。このたびナイトステイということで、夜到着して、広島に駐機して朝出発ということになりますので、日本人のお客様にとっては使いやすくなるかと考えております。

なお、日本人と韓国人との比率ですが、昨年度まではウォン高ということもあり、3割強が韓国の方、残りが日本人でありましたが、現在のウォン安、円高により韓国のお客様が大幅に減っておりますので、日本人が依然として主力になっております。

○要望・質疑（川上委員） 知事も2月定例会の提案理由説明でわざわざソウル線を取り上げて言われるぐらいですから、ひとつしっかりとPRして、この路線がさらに充実するように頑張っていたいただきたいと思います。

次に、観光についてお尋ねしたいのですが、広島県観光立県推進会議の委員名簿を見ると、県東部の人はほとんど載っていない。もちろん県東部の方にあるのは、業界の団体等の下部組織という場合が多く、仕方ない部分はあるのですが、広島中心の観光政策になりはしないか危惧するのですが、観光政策についても西高東低と言われるような状況でないかと思うのですが、いかがですか。

○答弁（観光課長） 確かに言われるとおり、観光関係団体は広島に事務所がございますのでそうっておりますが、別に東部を無視したわけではございませんので、そのところは集約した意見を出していただいているということで理解しております。

○質疑（川上委員） 別にと言うけれども、私はこの資料を見たら、県東部のことは置き去りにされているように思えてならない。もう少し広島県全体のことを考えて観光施策をしなければいけないと思います。特に、備後にはすばらしい地域もあります。せいぜい取り上げられているのは、しまなみ海道だけです。委員を選ぶにしても、少しぐらいは備後の方にも入っていただいて意見を言っていたらいいような形をとらないと、本当の広島県全体の観光施策とは言えないし、そういう意見が反映されているかどうかわかりづらいです。余り支障はないと言われますが、我々から見ると物すごく支障があると思いますが、いかがですか。

○答弁（観光課長） 確かにこの推進会議の委員はこのような状況になっておりますが、先日も開催いたしました。年に数回、全市町を対象に観光の会議を開催し、意見をお聞きしておりますので、県東部を無視するということはまずないと思っております。

○質疑（川上委員） 特に、広島や宮島のことだけやられているとは思いませんけれども、備後の観光施策について県当局はどういうふうを考えていますか。

○答弁（観光課長） 備後地域につきましては、まさにことし尾道・今治ルート10周年でございますので、そういった取り組みでやらせていただこうと思っております。先ほど御説明はいたしましたが、資料番号3の別紙2をごらんいただきますと、JR西日本と一緒にプロモーション活動、観光素材の開発を行う「DISCOVER WEST ミニキャンペーン事業」というのがございます。これは全県を対象としたデスティネーションキャンペーンではなく、一定の周遊観光が見込める地域を対象にテーマ性を持ったミニキャンペーンを展開するというものであります。現在、JR西日本と県内2カ所について調整中ですが、うち1つについては尾道・今治ルートでミニキャンペーンをしたいということで検討させていただいております。

○要望（川上委員） 備後を忘れないように頑張ってください。

○質疑（梶川委員） 関連して、今、川上委員から県東部の観光施策についてお尋ねがあったところですが、きょうの委員会の資料の中に最近全国的に話題となっている福山の鞆の浦に関するものはありません。現在、鞆の浦に橋をかけ開発するのか、それとも

景観を保護するのか意見が対立しており、鞆の浦で暮らしていらっしゃる方々は、生活を便利にするために橋をかけてほしいという意見が多い一方、鞆の浦以外のところに住んでいる方々は鞆の浦の景観を大切にしてほしいという意見が多くあるようです。こういった開発か景観保護かという意見が対立している状況における、県の観光施策に関する対応方針や、あるいは鞆の浦の観光の状況が過去と比べてどのようになっているのかということについて、教えてください。

○答弁（観光課長） 私からは埋め立て、橋の問題についてはお答えできませんので、観光についてお答えします。観光鯛網のほか、昨年は映画「崖の上のポニョ」の舞台にもなったということで、非常ににぎわっております。

資料番号3の別紙5の宿泊統計の7ページをごらんください。宿泊施設の従業者が10人以上のところ、個別の旅館とかホテルは公表しないことになっておりますことをご承知いただいた上で説明しますが、広島市は全宿泊者数の64%、3分の2です。宮島のある廿日市市が8.3%、福山市が11.6%です。これに比べ外国人の状況となると、広島市が87.3%、宮島のある廿日市市が5.8%となり、ほとんどが広島や宮島に集中しております。我々としては現在、特に東アジア地域、韓国、台湾、中国を中心にプロモート活動をさせていただいております、別に広島、宮島だけを見せるのではなく、見せるといいますか、現地の旅行会社の方に来ていただきまして御案内をいたしておりますが、もう広島、宮島は見たのでほかを見せてほしいということもありますので、そういう意を酌むということも含め、呉、尾道、福山方面にも実際に視察ツアーに行ってください、その上での商品の造成をお願いしております。

○要望（梶川委員） 現在、鞆の浦については羽田福山市長と金子国土交通大臣との考え方の違いというも浮き彫りになったこともあって、全国的に非常に注目されている地域です。ぜひこの委員会で鞆の浦の観光に関する資料を提出していただくことを要望いたしまして質問を終わります。

○（委員長） 梶川委員から鞆の浦の観光に関する資料要求がございましたが、執行部の方は対応できますでしょうか。

○答弁（観光課長） どのような資料でしょうか。

○要望（梶川委員） 過去数年の観光の入り込み数の状況についてです。鞆の浦の景観を保護しなければいけないという思いがある人たちなどにより、観光客数はふえているのではないかと思うのです。島嶼部に橋がかかると便利になるかという、実は人がどんどん流出して行って、橋がかかった地域は衰退していくという現状もございます。鞆の浦に橋をかけることによって利便性が増すと今言われているのですが、逆に鞆の浦から人がどんどん出ていってしまうのではないかという懸念もあれば、景観保護が大切だと鞆の浦以外に住んでいらっしゃる方はおっしゃっていますが、それほど大切に思うのであるようなところであれば観光客数はふえるはずなのに現状はどうかという疑問があります。こういった資料等を基に現在の開発か景観保護かという意見が対立しているときだからこそ、この委員会で論議しておくべきだろうと私は思う

- のです。
- (委員長) 梶川委員からこういった内容の資料要求がありますが、観光課長対応できますか。
- 答弁(観光課長) 以前、毎年入り込み観光客数の動向に関する資料はお渡ししており、これをごらんいただければ鞆の浦にはどのくらいの観光客数があるのかわかります。ただ、その数字は平成19年までのもので、20年のものはことしの6月でないとまとめられませんが、最新のデータについて福山市等に聞きまして、お示しできればと思います。
- (委員長) ただいま、梶川委員から資料要求がありまして、観光課長から答弁もありましたが、この資料要求につきましては、委員の皆さん、次回の委員会までにつくっていただくか、もしくは梶川委員に個別でも対応していただくか、いかが図りましょうか。
- (「個別でいいのではないか」と言う者あり)
- 梶川委員、委員長としましては手元の資料の中にも幾分かデータがあるようでございますので、詳細については個別に観光課長に対応していただくということによろしいですか。
- 要望(梶川委員) できましたら、全国的にも注目されている問題です。先ほど川上委員からも県東部の観光施策はどうなっているのかという質問もございましたので、ぜひこの委員会で鞆の浦の開発と景観保護についても議論すべきだと思いますので、委員会に資料を出していただきたいと思います。
- (委員長) 梶川委員、この委員会に付託されている調査事件は、国際施策の推進、観光立県の構築対策、文化振興の対策でありますので、開発云々といったことにかかわる所管外のことにまで議論することはできないことや、どこまで執行部が対応できるかわからないということを御承知おきください。
- (福山市鞆地区への入り込み観光客数について、委員会に諮って資料要求することに決定した。)
- 要望(梶川委員) マスコミによれば、鞆の浦地区には文化という観光資源があって、これを目当てにたくさんの方が来ているから大切だという意見もあるようです。こういったことについてもこの委員会の委員として考えたいと思いますので、ぜひ資料の提供をお願いしたいと思います。
- 質疑(宮委員) 先ほどユニタールの広報資料について県内の中学校に配布するという説明がありました。こういったことをされるのは非常にいいことだと思うところですが、その資料の中にひろしま平和貢献ネットワーク協議会の記述がありますので、これについてお尋ねしたいと思います。そうそうたるメンバーで構成されておりますが、年間の会議の実績はどれぐらいでしょうか。
- 答弁(国際課長) このひろしま平和貢献ネットワーク協議会ですが、現在のところ、このメンバー構成ということもありまして、基本的に幹事会という形で対応させてい

ただいています。それぞれの組織で幹事に就任していただける方に、基本的に年1回ないし2回集まっていたいております。

○質疑（宮委員） 総務局長がここにいるので言うわけではないのですが、成果が見えづらいところについての予算化が難しくなっているのではなかろうかと大いに懸念しております。現下の経済状況であると雇用や経済対策といった非常に生活に密着度の高い分野に、それなりに予算がつきやすいという背景があると思うのです。ユニタールについては、資料番号4の国際化関係資料の中に随分詳しく載っておりますが、実は気にしておりましたカンボジアの復興支援プロジェクトについて一言も触れておられません。私なりに他の資料を探してみたら、去年の決算資料である「主要施策の成果に関する説明書」にわずか4行、カンボジア関係の記述が出ていたという状況です。施策点検シートにも載っていますが、平成21年度はひろしま版プラットフォームというものを立ち上げて、そのネットワークを具体化していくという初年度に当たるのですが、ベンチマークの設定の仕方、評価の見える化、可視化というところでかなりのフォローをかけないと、緊急度というか優先度の低い事業というようなレッテルを貼られる懸念があるのではないのでしょうか。せっかくカンボジア復興支援も第2期の中間年までこぎつけているわけですので、実際に私たちも現地に行っておりませんから現地の評価はわかりませんが、指標の選び方、評価の見える化について検討をいただきたいと思うのですが、お考えがあればお願いします。

○答弁（国際課長） 国際化についてなかなか指標が見えにくいとおっしゃっていただいた点については、私どもも反省すべき点はあるかと思います。ただ、現在の社会が変化していく、しかも少子高齢、人口減少社会の中で地域の活力を生み出していくという点で海外との接点というのは大変大事だと思っておりますし、先ほど御説明させていただきました中四国唯一の国連機関のユニタールや、カンボジアの復興支援についてはJICAの支援も受けながら私どもは進めております。JICAの中国国際センターは、中国地方唯一のセンターが広島にございます。ですから、こういった国際貢献の面でも、それから今後の地域の活力を生み出すという点で昨春まとめられました人づくりビジョンでも、国内外の人材が集まる魅力ある元気な広島県ということになっておりますので、そういった点で国際課としましても多方面にわたって全力を尽くしていきたいと考えております。

その中でこういったベンチマークを設置すればいいかということですが、なかなか団体の数といった数字を示すのは難しいところもありますので、苦慮しているところです。わかりやすくということの一つの努力として、今回こういったパンフレットという形にしてみようということになりました。できるだけ皆さん方におわかりいただけるような指標の検討も含めて取り組んでいきたいと思っております。

○意見（宮委員） 広島にユニタールやJICAのセンターがあるというのは、ローカルな中であって実はきらっと光る中枢拠点性を発揮していると思っております。中学生にパンフレットを配布するというのは非常に効果の高いことだろうと感覚的に理解はでき

るのですが、施策点検シートを見ると、国際的人材育成の多様な展開と連携という項目では進捗率が、これは間違いだと思ってしまうのですが、マイナス 113 と書いてあるわけです。だから、本気で発信をしようとしているように見えない。人数などの物理的な尺度ではかるというのはわかりやすい、想像しやすいのですけれども、それだと本当に不要不急みたいなレッテルを貼られかねないのではないかと思います。せっかくここまでこぎつけたことが何なのだとということになってしまいます。平成 21 年度のプラットフォームスタートについて期待しておりますので、その点を十分に配慮いただいて、足らずは総務局長にお願いして、必要な PR なり評価の広報等に努めていっていただきたいと思えます。

○答弁（国際課長） 1 点だけお答えさせていただきます。今のマイナス 113 の数字でございますけれども、受け入れ研修員の人数に基づいていることからマイナスになっているということです。現在、国の ODA 予算の縮小等もありまして、JICA の受け入れ研修員の人数が減ってきているということが背景がございます。ですから、そういった点で指標のとり方はなかなか難しいものがございますが、いずれにしても私どもは地域の活性化の中で国際交流、国際協力、貢献といったものもちゃんとわかりやすく取り組んでいきたいと思っております。よろしくお願ひいたします。

○要望（宮委員） この間、週刊誌を見ていましたら、中国からアフリカへの無償供与の ODA は 1,500 億円あり、アフリカでの中国の ODA に関する評価はすごく高いのですが、日本から中国への同じ ODA も 1,500 億円ありながら、評価されていません。使う以上はその効果をちゃんと謙虚に測定をしつつ、PR に努めていただくと同時に、本当に県民のためになるのかならないのか判断せざるを得ない時期がやってくることも意識した測定方法も考えておかないといけないと思うのです。予算を絞られたからなくなりましたということであれば、財産としてちゃんと残っていないのだろうと思うのです。こういった点も十分配慮をいただきますようお願いいたします。

(4) 閉会 午前11時17分